

新型コロナの流行下におけるオンライン会議システムの利用

○石井健一 (Kenichi Ishii)

Keywords : テレワーク、オンライン会議システム、ZOOM、友人関係、孤独感、新型コロナウイルス

1 目的

本研究(注)の目的は、新型コロナの流行下において急速に普及したオンライン会議システムの利用要因について探ることである。オンライン会議システムの仕事での利用だけでなく、友人との利用についても分けて分析を行う。どのような要因がオンライン会議システムの利用に効いているのかを分析するとともに、利用がもたらす効果についても論じる。

2 方法

楽天インサイト株式会社のインターネットアンケートシステムを利用してオンラインモニター1000人に回答を求めた。調査実施日は、2020年6月12~14日、調査対象は18歳以上80歳未満の男女とした。全国を13のブロックに分け、各ブロックの10代刻みの年齢および性別の人口分布に比例した回答者数を割り当てた。二回目の調査は、2021年2月15日~18日に上記の回答者に再度回答を求めた(ただし、回答者数の上限を400人とした)。

3 結果

第1回調査では、緊急事態宣言中の勤務形態について聞いたが、仕事のある人の在宅勤務率は約30%であった。このうち、53%がオンライン会議システムを利用していた。オンライン会議システムの利用率は、第2回調査(2021年2月)では低下した。在宅勤務の効率性の評価は、「通常業務より効率的でない」とする者が「効率的である」とする者よりも多かった。ただし、オンライン会議システムを用いていない者よりはよりは在宅勤務を効率的であると評価していた。利用者の特性を回帰分析によって分析したところ、学歴(高学歴)、収入(高収入)と地域(首都圏など)が有意な係数として得られた。これは、オンライン会議システムの導入が大企業中心であったことを反映していると考えられる。また、仕事上のオンライン会議システムの利用と友だちとの交際のためのオンライン会議システムの利用には有意な相関があった。さらに、「友だちと会えなくて寂しい」と感じている人ほど、友人との交際のためにオンライン会議システムを利用している傾向も見られた。

4 結論

オンライン会議システムは、いまだ全面的に普及しているとは言えず、普及も大都市の大企業中心である。また、仕事での利用が友人との交際での利用を促進する効果があるようである。

注 本研究(パネル調査の第1回分)は、楽天インサイト株式会社が保有する調査・分析アセットを非営利プロジェクトへ無償提供する”Beat! COVID-19(打倒新型コロナウイルス)プロジェクト(2020年実施)”に筆者が参加し、そのプロジェクトにおいて楽天インサイト株式会社のモニターに対して実施したアンケート調査結果を報告するものである。楽天インサイト株式会社に感謝の意を表したい。

【主要参考文献】

石井健一(2020) 新型コロナウイルスへの人々の対策行動と意識—Beat! COVID-19(打倒新型コロナウイルス)プロジェクト第一次報告・http://open.shonan.bunkyo.ac.jp/~k_ishii/BeatCovid19_20200630.pdf